

製品名: TF (リン酸化 Ser290) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05546**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	40kDa

抗原情報

遺伝子名	F3
別名	F3; Tissue factor; TF; Coagulation factor III; Thromboplastin; CD antigen CD142
遺伝子 ID	2152.0
SwissProt ID	P13726
免疫原	抗血清は、ヒト凝固因子 III の Ser290 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 246-295

背景

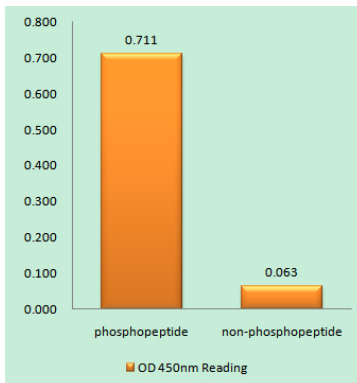
この遺伝子は、細胞表面糖タンパク質である凝固因子 III をコードしています。この因子は、細胞が血液凝固カスケードを開始できる

ようにし、凝固因子 VII の高親和性受容体として機能します。結果として生じる複合体は、特異的な限定的なタンパク質分解によって凝固プロテアーゼカスケードを開始させる触媒反応を提供します。これらのプロテアーゼカスケードの他の補因子が機能しない前駆体として循環しているのとは異なり、この因子は強力な開始因子であり、細胞表面に発現すると完全に機能します。この因子には、細胞外、膜貫通、細胞質の 3 つの異なるドメインがあります。このタンパク質は、凝固経路において先天性欠損が報告されていない唯一のタンパク質です。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2010 年 5 月]、機能：循環血液中の第 VII 因子または第 VIIa 因子と複合体を形成し、血液凝固を開始する。[TF:VIIa]複合体は、特異的な限定的タンパク質分解によって第 IX 因子または第 X 因子を活性化する。TF は、細胞表面への集合と凝固プロテアーゼカスケードの伝播を開始することで、正常な止血に関与する。誘導：TF の発現は細胞の種類に大きく依存する。TF は、炎症性メディエーターであるインターロイキン 1 および TNF、ならびにエンドトキシンによって誘導され、細胞性免疫応答の構成要素として単球および血管内皮細胞上に発現する。オンライン情報：シンガポールヒト変異・多型データベース、オンライン情報：組織因子エントリ、類似性：組織因子ファミリーに属する。

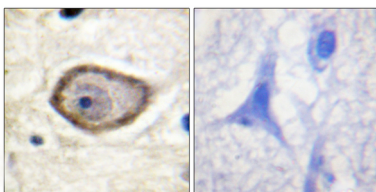
研究分野

補体と凝固カスケード;

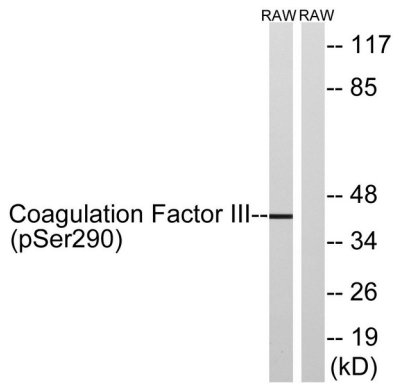
画像データ



凝固因子 III (リン酸化 Ser290) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



凝固因子 III (リン酸化 Ser290) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



TNF 20 ng/ml 30 μ L 処理した RAW264.7 細胞のライセートを、凝固因子 III (リン酸化 Ser290) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロックされている。